

## 南西部地域医療圏における医療・介護連携に関する意見交換会について

朝霞保健所

医療・介護連携に関する現状や課題について意見交換を行い、新たに整備される地域包括ケア病床等に期待される役割などを確認・共有する目的で開催した。

## 【開催概要】

- 日 時：令和元年11月1日（金） 19：00～20：30
- 場 所：朝霞保健所大会議室
- 参加者：東入間医師会、急性期病院、回復期機能病床（地域包括ケア、療養病床）を有する病院、特別養護老人ホーム、在宅医療連携拠点、消防、関係市町

## 【主な意見】

- 急性期病院から
  - ・初期評価の部分で治療が終了し退院されるので、その後の在宅復帰に向けたリハビリを地域包括ケア病床で受け入れていただきたい。
  - ・喀痰吸引が必要になるかもしれないと示唆しただけで老健に受け入れてもらえないことがあり、結果的にたらい回しになってしまうことがある。
  - ・高次脳機能障害の方や高額薬剤使用者については受入先が限られてしまう。
- 回復期機能病床を有する病院から
  - ・入院時の情報（受けている介護サービス、ADL、家族構成等）が明確になると退院時のゴールが見えやすい。
  - ・入退院時の情報が共有できているとスムーズな支援ができる。
- 在宅医療連携拠点、特別養護老人ホーム、市町から
  - ・退院時にADLが落ちている方が多い。入院中にリハビリが十分できる環境を望む。
  - ・在宅を想定した生活リハビリを入れていただけると助かる。
  - ・病院と施設の職員同士が十分なコミュニケーションを取りながら連携していくことで相互の受入れの幅が広がるのではないか。
  - ・夜間や急変時など受入先がすぐに見つからないケースがあり、対応に苦慮している。

## 【まとめ】

- 新たに増床する地域包括ケア病床等については、既存の機能は勿論、各病院の得意分野を生かしつつ、地域の課題を解決に導く機能を持つことが望まれる。
- 医療・介護の連携には情報の共有が欠かせない。今まで以上に情報共有を進め、患者ファーストの医療や介護を提供できるよう協力していくことが重要である。